



2022年8月8日(月)11日(木)VOL.05

【寛記】

僕が農業に興味を持ったのは20代の後半です(現在53歳)。

当時、国家公務員として旭川で勤務していて、「北の国から」というドラマにはまっていて、富良野近辺のロケ地めぐりをしたり、倉本聰さんの著作を読みまくっていました。

その中で出会った言葉が「人間の最も基本的な営みが農業である」

当時、倉本さんが運営していた「富良野塾」という、脚本家と役者の養成塾では、夏の間は塾生は農家に出面さんとして働きに出ていましたが、それは出面真(アルバイト代)を稼ぐという目的の他に、脚本家や役者が人間の基本的な営みである農業の現実を知ることは、「人間」を描くドラマを作っていく上で欠かせない経験だという考えに基づくものです。

僕は役者にも脚本家にもなるつもりはありませんでしたが、この倉本さんの言葉をきっかけに農業に興味を持ちました。社会を維持するために欠かせない農業なのに、なぜいつも「厳しい」と言われるのだろうか？農業の未来が見通せないなら、社会の未来も見通せないのでは？、20代の僕はそう考え、マスコミが加工した情報ではなく、農家さんに直接話を聞いてみたいと思いました。

タイミングよく旭川の若手農家グループが運営する通年型農業体験塾「旭川市民農業大学」の学生募集の記事を見つけ、愛子を誘って参加することにしました。この「旭川市民農業大学」での、30代から40代の若手農家さんとの交流と、農作業体験が僕たち夫婦の農業の原体験です。

「経営が厳しい」とか、「後継者がいない」とか、「離農が相次いでいる」と言われる中でも、命の糧となる食糧を生産することに誇りを

もって、大地に根付いて働く農家さんは皆さんカッコよくて、ユニークで、そして優しくて、本当に素敵な方が多く、たくさんの学びと刺激をいただきました。

職場の上司や同僚には内緒にしていたのですが、元々「まずは10年、公務員として頑張って、その後どうするかは働きながら考えよう」と思っていた僕は、公務員4年目で農業と出会い、旭川の農家さんに刺激を受けて、自分も農家になろうと考えるようになったのでした。

あれから約25年が過ぎ、僕は農業を続けています。まさか札幌で、しかも住宅街の中で農業をするとは、当時は夢にも思っていまらなかったのですが、これからもこの地で農業を続けて、おいしい野菜をたくさん作って、また、ここを訪れた方々が、農に触れ、食べることの楽しさを感じられる農場を作っていきます。

(今日も先週に続いて涼しい作業場で文章を書いたら、スムーズに書けました。環境大事！笑)

【愛子】

春先に出た今年の夏の天気予報は「猛暑」ということでしたが、皆さんはどんな体感でしょうか？

畑では、今年の夏は過ごしやすいなーと感じます。暑い日はあっても耐えられて、夜には涼しくなるので寝苦しいこともなく、やはり昨年の猛暑のことを思い返せば、今年は昼も夜もラクです。また去年は雨が全く降りませんでしたが今年は適度に降ってくれます。

このような天候は作物にとっても心地良いようで全体的に良い成育です(ピーマンは元気がないけど…)。

このまま、穏やかに秋までたくさんの実りに恵まれますようにと願うばかりです。秋はまだまだ先と思うのですが、今日(8/7)、日差しや風がお盆過ぎのような雰囲気でしたのですが、気のせいですよね……？

伊達家の食卓

【濃厚じゅわトロズッキーニ】

<塩ザンギ>

乱切りにして塩をふって、おろし生姜も混ぜ合わせ、片栗粉をつけて揚げます。



<肉巻き>

ズッキーニを縦に六等分にして、豚スライス肉をくるくる巻いて塩こしょうして、フライパンやホットプレートで焼きます。青紫蘇を巻き込んで美味しいです。

【マンズナル】

爆発的になってきました。

会員さんが、塩こしょうして、グリルで焼くだけで美味しいと教えてくれて、写真を送ってくれました。



【きゅうり】

お好みの形に切って、千切り青紫蘇、塩と合わせて即席漬けは簡単でさっぱりします。

【なす】

今年はなすが順調です、私は縦に半分切って、油を引いたフライパンで塩こしょうして、両面焼くだけがとろりと柔らかくて好きです。

【連絡先】ファーム伊達家 伊達寛記・愛子



Webサイト

Instagram